

岡山作文の会会長賞

さるが いっぱい

真庭市立遷喬小学校

一年生 中西 ゆうと

お正月しょうがつに、ほし山やまじいちゃんの いえに いきました。い
くちゆう中で、さるに あいました。

ぼくの おじいちゃんは、かんぱの たきの 上うえの ほうに
すんで います。おじいちゃんの いえに いく 中で、
「そとは、マイナス 四よんどに なったので。」

と おとうさんが おしえて くれました。車くるまが すすむと、
ゆきが どんどん おおくなって きました。ぼくも なんだ
か、どんどん さむくなって きました。

「みちが こおつとる。こりゃ すべるぞ。」

と おとうさんが いいました。ぼくは、こわかったので、車
の もつところを 一いっしょうけんめいに にぎって いました。

しばらく いくと、

「みて みてえ、ゆうと、さるが おるぞ。」

と おかあさんが 大おおきな こえで いいました。

「ほんとじゃ。」

と ぼくは、さるを みのがさない ように、ドキドキ しな
がら まどの そとを 見みました。

さるは、車くるまが すすんでも なかなか よこに よけませ
んでした。すぐに よけないので、ぼくは、あぶないなあと
おもいました。

おとうさんが、クラクションを ならしました。さるは、
ゆっくり みちの よこに にげました。ガードレールの お
こうがわを 見ると、たくさんの さるが いました。ぼくは、
びっくりして、

「みてえ、さるが いっぱい おるぞえ！」

と さけびました。

「ほんとじゃ、しゃめんに いっぱい おるがん。こんなに
たくさん いるのを 見たのは、はじめてじゃわ。ゆきで

たべるものがないから、みちまで 出でて きたんかなあ。」
と おかあさんが いいました。ぼくは、あかちゃんざるを

みつけて、

「あそこ、おかあさんごるが あかちゃんごるを だっこして
る。」

と いいました。

「あかちゃんごる、小さくて かわいいね。」

と おかあさんが いいました。あかちゃんごるは、めがく
りっど していて、小さくて、おかあさんごるに ぴったり
くっついて いました。かわいくて、ずっと 見て いたかっ
たです。

また らいねんも、たくさん の さるに あえたら いいな

あと おもいました。